

# 連携型省エネ船のコンセプト策定

## 連携型省エネ船：

- **荷主・陸上・港湾等と連携**し、更なる省エネ・省CO<sub>2</sub>を実現する船舶
- CO<sub>2</sub>削減率、費用対効果を勘案した搭載する機器・技術の組み合わせを**提示**  
(船種により約18~25%以上のCO<sub>2</sub>削減率)
- 対象船種：一般貨物船、タンカー、749GTセメント船、5,000GTセメント船、RORO船、長距離フェリー、中小型旅客船（内航海運のCO<sub>2</sub>排出量のうち、最大**70%**カバー可能）
- 経済産業省との連携による補助事業※等により省エネ技術の導入等に係る費用の一部を補助することで、普及に向けた取組を推進

※AI・IoT等を活用した更なる輸送効率化推進事業費補助金(内航船の革新的運航効率化実証事業)  
⇒内航船を対象に、革新的省エネ技術の導入による省エネ効果の実証を支援する事業

## <一般貨物船のコンセプト検討例>

CO<sub>2</sub>削減率：約20%~

### 停泊時・荷役時の省エネ技術

・陸電・蓄電池の利用

### 運航効率改善

・ウェザールーティング等

約8%削減

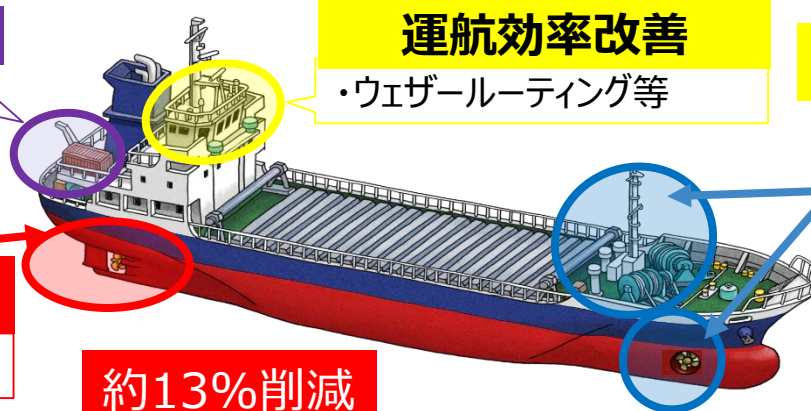
### 離着棧時間短縮

・高機能スラスト  
・高効率甲板機器：  
甲板機器の電動化・  
自動化

### 推進効率改善・抵抗低減技術

・高効率エンジン、プロペラ等

約13%削減



地球温暖化対策計画に掲げられた2030年度CO<sub>2</sub>排出削減目標（181万トン）

達成のための更なる省エネの追求を推進